東京医科歯科大学

医歯学融合教育支援センター

話題の講義ライブ LIVE 2015
5.7.Thu. at Ochanomizu 10:50~11:30

本日の講義 **チーム医療入門**

講義の流れ 東京医科歯科大学、早稲田大学、星薬科大学の学生による共同プログラム講義。二日間を通して各学科の学生で形成される医療チームをつくり、具体的な患者のケーススタディに対して各々が意見を出し合い、ベストと思われる介入策を提示する。

醍醐味 さまざまな学科からの視点に触れ、意見を出し合うなかで、一人の患者さんへの最善の解決策を生み出すことの大切さが学べる。

医系学部の垣根をこえて チーム医療の大切さを学ぶ二日間

東京医科歯科大学に 医歯学系の学生が集結！

医療をテーマにしたドラマに、しばしば登場するチーム医療。チーム医療とは、役割の違うメディカルスタッフが意見を出し合い、患者の治療にあたることだ。今回の「チーム医療入門」に集うのは将来メディカルスタッフの一員となる医師や歯科医師、看護師や歯科衛生士、歯科技工士、臨床検査技師などを目指す学生たちである。メンバーには早稲田大学人間科学部健康福祉学科と星薬科大学薬学部薬学科の学生もおり、総合病院の医療チームさながらだ。

二日間にわたる同実習は、実際の患者をもとに作成したシナリオを用いてチームで課題に取り組む。「二日目のシナリオでは、糖尿病と歯周病の問題を抱える患者さんをサポートするケースを想定し、各職種が意見を出し合いながらベストな医療を考え、班ごとにその解決策を提出してもらいます」。普段は消化器内科医の顔をもつ中川先生が実習の主旨を説明する。

各学科の学生が一人ずつ、合計6~7人で構成される各班には他大学の学生もいるため、この日が初対面だ。「これからの40分間は明日の実践的な取り組みの前のアイスブレイクの時間としましょう」。アイスブレイクとは、初対面同士の人々が打ち解けあうための時間だ。

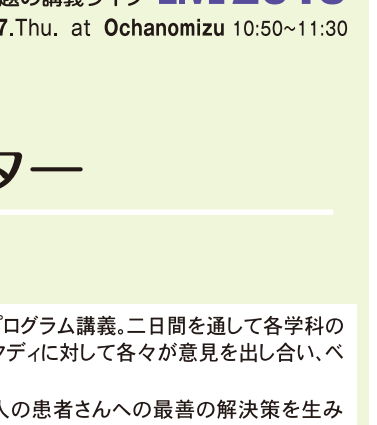
「人の命が左右される」 学生の頃から育まれる使命感

アイスブレイクでは本番の肩慣らしとして医療事故の例が複数用意され、各分野の学生が意見を出し合うことになっている。では、一つの班を覗いてみることにしよう。

この班で取りあげる医療事故は、想像するだけでちょっとコワい。ワーファリンを服用する患者の歯を抜く際に、歯科で確認すべき検査の内容が半年前のものだったため服用に気づかず、出血が止まらなくなったという事例である。

「ワーファリンは血液がつまるのを防ぐ抗凝血剤です」と歯学部生がサラリと説明する。このケースは歯学部生の独壇場であり、各学部生と歯学部生との質疑応答の様相を呈する。「半年前の検査結果しか見てないなんてずさんだよね」という声に、「歯科医師は主治医に確認して、どんな薬を服用しているか確認すべき」と歯学部生が答える。「でも、歯科衛生士も問診すべきじゃない？」。「それに医師が患者さんに薬の作用をちゃんと伝えるべきでしょ」。歯学と医学がタッグを組んだ熱い議論の末、チーム医療としての解決策がまとまっていく。

机を囲むのは各学科の最終学年を主体とする6~7人の混成グループ（合計48グループ）。学生とはいえ、これまでに得た知識から結論を導き出していく様子は頼もしくもある。「造影剤の種類を知らなかったっていっても、人の命が左右されるんだよ」。造影剤の投与ミスによる死亡事故について話し合うなかで医学生が呟いたひと言は、彼らが学生のうちから培ってきた使命感を象徴する言葉といえるだろう。



なかがわ みな
中川 美奈先生

東京医科歯科大学医学部卒業。同大学医学系研究科 消化器病態学博士課程修了。同大学医学部附属病院助教、医学部附属病院消化器内科助教、大学院医歯学総合研究科寄附講座教員を経て、同大学准教授。

脈々と受け継がれる医療の種まき

「チーム医療入門」は来年から「包括医療統合教育プログラム」の一部に組み込まれる。この新たな試みでは、二週間にわたって医学科と歯学科の学生が口腔及び全身疾患を持った患者の診療や社会の中での医療のあり方に関する共通の講義を受けることになる。医歯学連携の教育はいま着実に前進しているが、実際の現場におけるチーム医療の難しさも先生は指摘する。「医療現場ではすべての患者さんに対してチームを組むことはできません。ときには手紙を使って患者さんに関する連絡を医療者間で取ることもありますが、忙しい毎日の診療の中で十分な連絡もままならないのが現状です。しかし患者さん一人ひとりと向き合うために、何か方法を模索する必要があるのです」

方法とは何か。そのヒントは教育にあるという。「教育段階からチーム医療の重要性を学生たちに知ってもらい、彼らが種をまくことでチーム医療のあるべき姿を模索してほしいのです」。冗談まじりに「将来私が病気がちな年齢になる頃に素晴らしい医者になっていてほしいですからね」と話す先生もまた、医療の将来をみすえた種まきをしている。

学生の声

張 景閎さん
医学部 医学科 6年
「チーム医療入門」ではさまざまな職種の人と話し合うなかで、普段は知ることのない、他の仕事の内容を知ることができたという意味で貴重な時間でした。東京医科歯科大学の医学部はとても勉強熱心な学生が多く、常に切磋琢磨しながら勉強できると思います。将来は臨床医としてさまざまな患者さんのニーズに応えられる医師になりたいと考えています。

松井 健太郎さん
歯学部 歯学科 6年
チーム医療についてはこれまで学んできましたが、こうしてそれぞれの職種を目指す学生と意見を交わすことで、実感としてチーム医療の大切さを認識することができました。東京医科歯科大学は病院にいる患者さんの数がすば抜けて多く、学生も実習で患者さんを治療できるのは大きな魅力です。将来は開業歯科医として地域の人々の虫歯をゼロにするのが夢です。

東京医科歯科大学

URL http://www.tmd.ac.jp/admissions/material/
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 東京医科歯科大学学務部入試課
TEL:03-5803-5083 平日（月曜日～金曜日）8時30分～17時15分

医学部
歯学部

［ 沿革・歴史 ］

1928年	東京高等歯科医学校を設置
1944年	東京医学歯学専門学校となり医学科を設置
1946年	東京医科歯科大学（旧制）設置
1951年	国立学校設置法により東京医科歯科大学（新制）設置
2000年	大学院医歯学総合研究科（7専攻）を設置
2001年	大学院医歯学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）を設置
	大学院保健衛生学研究科（2専攻）を設置
2004年	国立大学法人 東京医科歯科大学設置
2011年	歯学部口腔保健学科（2 専攻）を設置
2012年	大学院医歯学総合研究科を改組（2専攻）（大学院生命情報科学教育部を統合）
2013年	再生医療研究センターを設置
2014年	大学院保健衛生学研究科を改組（3専攻）（共同災害看護学専攻を設置）
	スポーツサイエンス機構を設置

イベント情報

口腔保健学科編入学説明会
日　程: 6月18日（木）
時　間:17時30分～18時30分
場　所:湯島キャンパス

オープンキャンパス
日程: 7月30日（木）・31日（金）
会場：湯島キャンパス

歯学部オープンキャンパス
日程：8月31日（月）
会場：湯島キャンパス

取材担当記者より 東京医科歯科大学、こんな大学でした！

東京医科歯科大学は、教員として大学に戻ってくる卒業生が多く、教育に熱心な先生が多いそうです。「医者は目の前の患者さんを助けることができますが、たくさんの医者を育てれば、より多くの患者さんに良い治療を提供できます」という中川先生の言葉はとても印象的で、大学の姿勢が表れていると感じました。

資料請求は簡単！ 本紙に掲載した大学（私立大学のみ）の案内資料は、P40のハガキ、または東進のウェブサイトwww.toshin.comから請求できます。